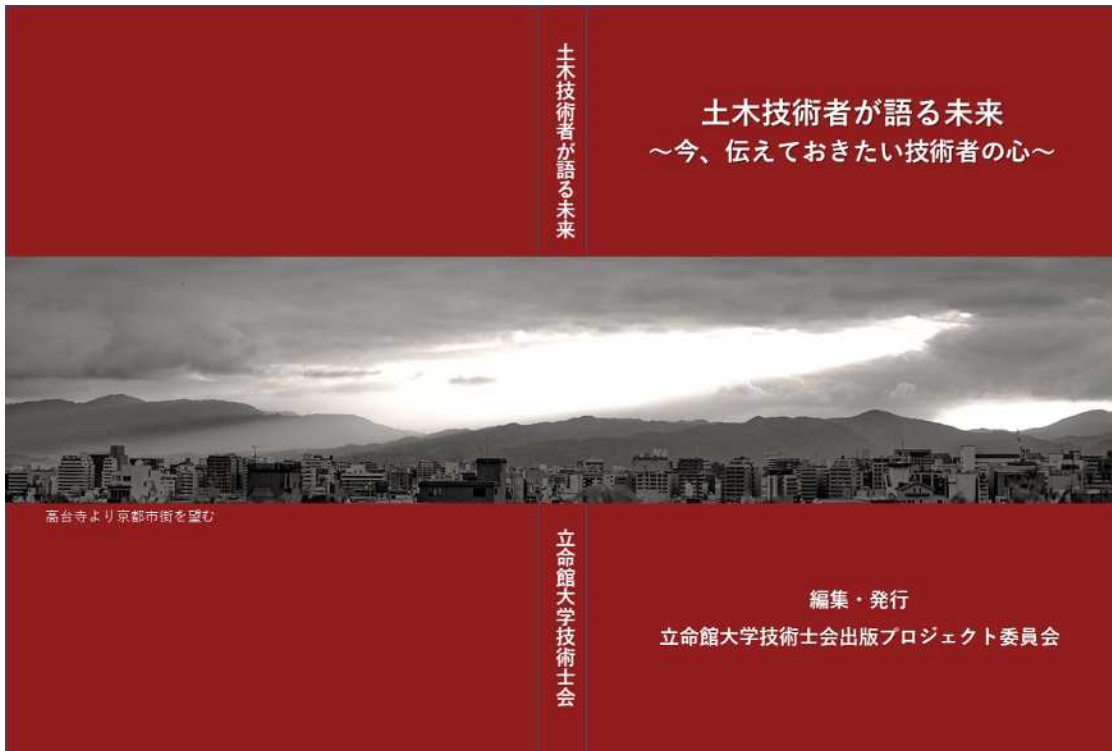


土木技術者が語る未来  
～今、伝えておきたい技術者の心～  
執筆者公募のお知らせ

令和3年3月1日  
立命館大学技術士会 出版プロジェクト委員会  
編集長 楠本 博



## 1. 公募の概要

### (1) 図書の趣旨

2015年7月に出版した『土木、この素敵な世界』に続いて、この度、第二弾の図書の出版を企画しましたのでお知らせを致します。

現在、日本の土木技術は近代土木と呼ばれる技術が花咲いた時代から大量生産の時代を経て、機械化やIT化という道を進んでいます。また、異常気象等の自然災害の多発や地域的紛争、人種間紛争、貧困問題、そして思いもよらないウイルス感染の蔓延という災禍に見舞われています。このような社会変化は土木技術の分野にも影響をもたらすはずで、その未来は技術的パラダイムシフト上にあるのか、あるいは原点回帰にあるのか、いずれにしても、これまでの延長線上にないことだけは確かです。

そこで当技術士会では、技術の最前線にいる技術者が抱えるさまざまな課題とあるべき姿を縦横に述べることで「土木の未来」が描けないかと考えました。切り口は皆様の土木技術の専門分野でも、日々の生活でも、どんな話題でも結構です。執筆者が思う土木の未来像を描いたエッセーを募集致します。

### (2) 図書の概要

- タイトル : 土木技術者が語る未来 ～今、伝えておきたい技術者の心～
- 出版形態 : 電子書籍を予定
- 応募対象者 : 立命館大学工学部土木工学科（当時）から、現在の工学部都市システム学系に至る卒業生とし、詳細は2. 応募詳細を参照して下さい。
- 本の構成 : 執筆者数は上限なしとします。
- 想定読者 : 土木技術者を始め、広く一般の読者とします。
- その他の注意 : 極端な政治的主張や宣伝活動の他、社会的モラルに照らして相応しくないとと思われるものは採用しないことがありますので、ご注意下さい。また、執筆にあたって個人情報の公開程度によって生じるあらゆる損害については、当会は一切責任を負いません。

## 2. 応募詳細

### (1) 公募スケジュール

原稿締め切り	<u>令和3年9月末（予定）</u>
出版予定（電子書籍）	<u>令和4年1月初旬（予定）</u>

### (2) 原稿の様式

データ種類	MS-Word® 2003以降
本文様式	A4 / 横書き / 游明朝 / 10.5ポイント
タイトル・副題	一行目 / タイトル / 游明朝 / 10.5ポイント太字 二行目 / 副題 / 游明朝 / 10.5ポイント太字
用紙レイアウト	一行40文字 / 一頁36行 余白 上35mm / 下30mm / 左右30mm
枚数	4枚以上6枚以内 (複数の執筆者のエッセー集ですので厳守して下さい)

### (3) 執筆者情報

執筆者紹介として、タイトルと執筆者をまとめて巻末に掲載致します。ご氏名（匿名可）、卒業年次、卒業学科を公開致しますので、予めご了解下さい。

### (4) その他の注意点

- ① 提出していただく原稿は、最終的に若干の様式上の校正が入ることをご承知おき願います。
- ② 応募は、一人一編とします。著作権を含む利用権を他で設定されている作品の応募はできませんので、自己の責任においてご注意ください。
- ③ 原稿料や印税はお支払い致しません。また、採用された原稿作品の利用権は立命館大学技術士会に帰属するものとします。
- ④ 提出先および質問等は、以下の立命館大学技術士会出版プロジェクト編集部宛にお願いします。また、必ず編集長へのccもお願いいたします。

編集部 : rits.kikaku.mado@gmail.com  
cc 編集長 (楠本) : hiroshigm7@gmail.com

(5)様式見本

タイトルと副題 游明朝 / 10.5 ポ イント太字	土木技術者が観る過去と未来 ～私達の未来を輝くものになりたい～ 1 行空ける	副題は ～ (全角) で囲う
<b>昭和から令和時代</b>		
<p>私は土木の未来について、<small>小見出し (括弧や頭に番号等はつけない)</small> 高齢者と女性の社会への参加比率の増加が大 きな要因は、<small>游明朝 / 10.5 ポイント太字</small> の延長については、定年 が延びると一時的に労働力不足が懸念される状況に置かれてい るが、<small>呼べる状況に置かれてい</small> 日本人の意識も変 るが、<small>呼べる状況に置かれてい</small> 「今回の危機はほかに類を見ないもので、2100年に至るまでの期間におい て、人口、資源・環境、食糧、科学技術等の状況がどのように変化するかを想定し、それ らの条件の下で、国際社会、産業経済等は変化するのであって<small>呼べる状況に置かれてい</small> AIの技術革新 の勢いは著しく、複雑な作業がロボットやコンピューターなどの機械に代わられようとし ています。</p> <p>このような海外の情勢を見るにつけ、私は最近よく考えるようになったことについて 順にまとめて見ようと思ったのである。</p> <p>1 行空ける</p>		
<b>社会環境の変化</b>		
<p>現在、日本の土木技術は近代土木と呼ばれる技術が花咲いた時代から大量生産の時代 を経て、機械化やIT化という道を進んでいます。また、異常気象等の自然災害の多発や 地域的紛争、人種間紛争、貧困問題、そして思いもよらないウイルス感染の蔓延という災 禍に人々は見舞われています。このような 社会変化は土木技術の分野にも影響をもた らすはずで、その未来は技術的パラダイム シフト上にあるのか、あるいは原点回帰に あるのか、いずれにしても、これまでの延 長線上にないことだけは確かです。</p> <p>そこで当技術士会では、技術の最前線に いる技術者として現代の土木技術および技 術者が抱えるさまざまな課題とあるべき姿 について述べながら、技術者が「素晴らし い未来」エッセーを公募します。切り口は皆様の専門分野から、日常生活、世界情勢と何 でも結構です。います。このような社会変化は土木技術の分野にも影響をもたらすはず で、その未来は技術的パラダイムシフト上にあるのか、あるいは原点回帰にあるのか、い ずれにしても、これまでの延長線上にないことだけは確かです。</p>		
<p><b>【図表、写真等を入れる場合】</b> スペースの幅はページ幅の半分まで 高さは10行分まで 周囲の文字は必ず「回り込み」の機能を使 い、強制改行はしない。</p>		